

## 平成25年度 第2回 太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
中央水産研究所がとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(平成26年1月～6月)のポイント

#### 海況

潮岬以東の黒潮は、概ねC型で推移する。沿岸水温は概ね、潮岬以西が「平年並」～「低め」、熊野灘～伊豆諸島北部海域および伊豆諸島南部海域は「平年並」～「低め」、房総～常磐南部海域が「平年並」～「やや高め」で推移する。

※ C型：非大蛇行離岸流路

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、

高め＝平年値+1.5℃程度、低め＝平年値-1.5℃程度

#### 漁況(来遊量予測)

マサバ・ゴマサバ

前年を上回る海域が多い。

マアジ

北薩～土佐湾では前年を上回る。

紀伊水道外域～相模湾では前年並。

マイワシ

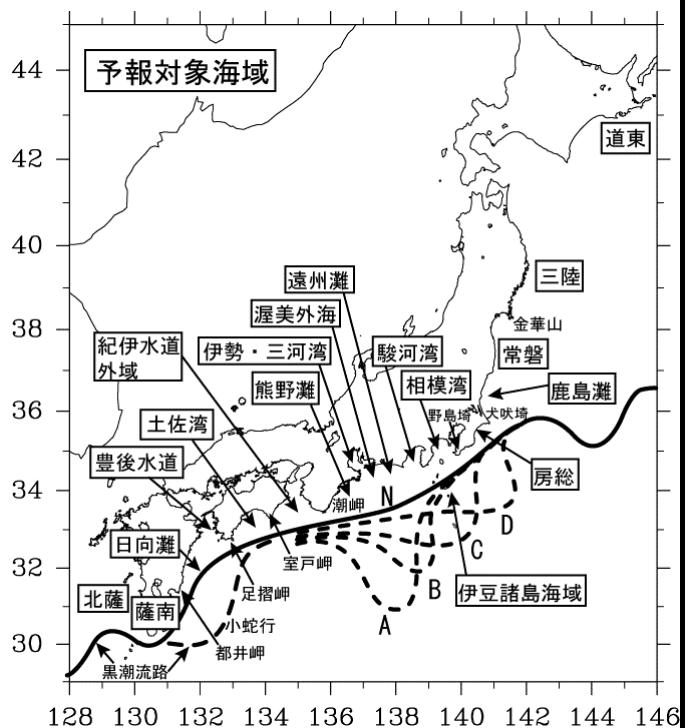
前年並～下回る海域が多い。

カタクチワシ

前年を下回る。

ウルメイワシ

前年を下回る海域が多い。



### 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 梶脇、影沼澤

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 業務推進部

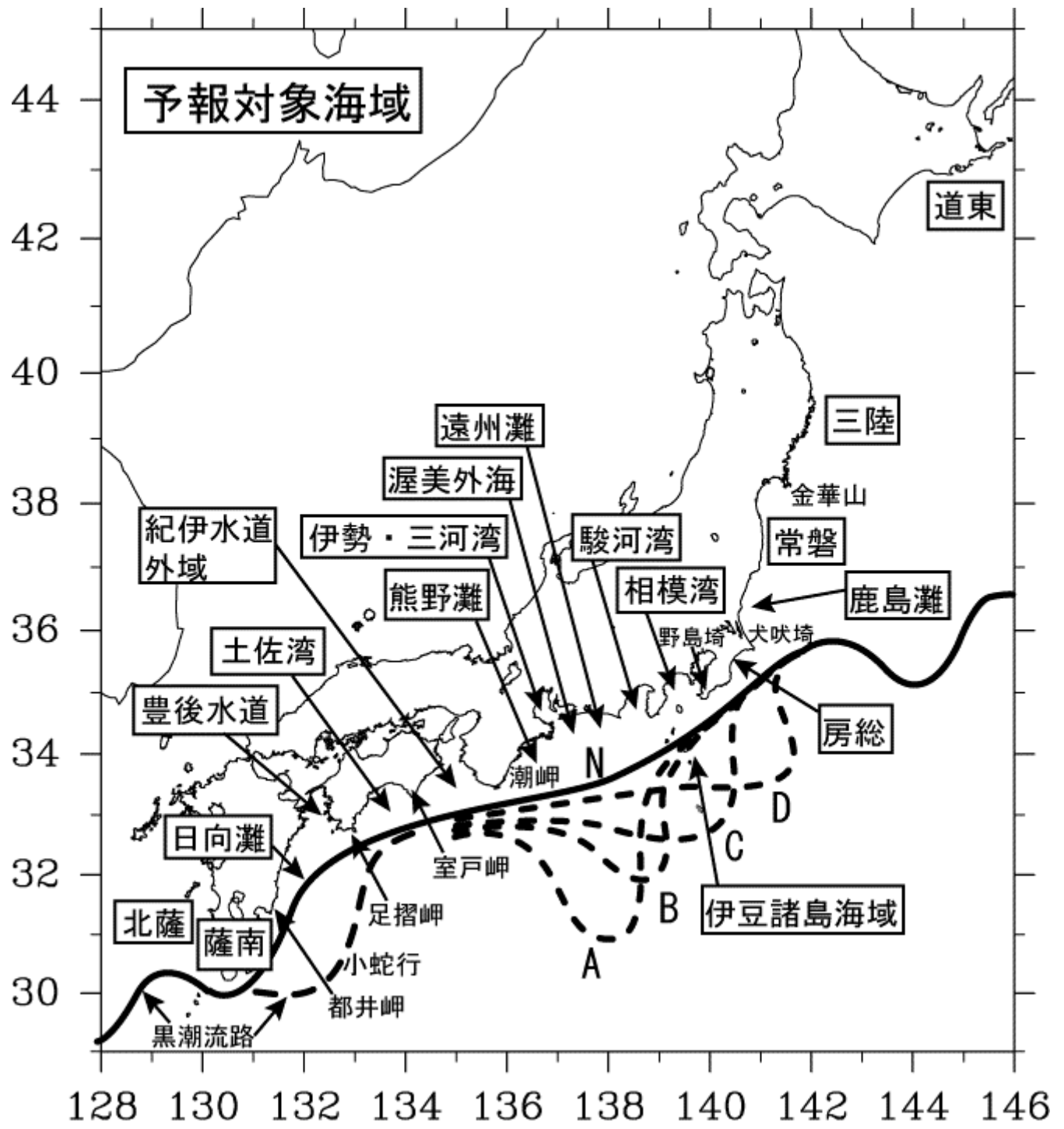
担当：市橋、川崎

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>



## 中央ブロック海況予報

### 今後の見通し（2014年1月～6月）

#### (1) 黒 潮 （注：黒潮流型は図1を参照のこと）

##### ◎潮岬以西

- ・ 都井岬沖では、接岸傾向で推移する。小蛇行の形成により、1月と3月に一時的に離岸する。
- ・ 足摺岬沖では、接岸傾向であるが、2月と4月に小蛇行の東進により一時的に離岸する。
- ・ 室戸岬～潮岬沖では、離岸傾向であるが、2月と4月に小蛇行の東進の前後で一時的に接岸する。

##### ◎潮岬以東

- ・ 概ねC型で推移する。3月と5月に小蛇行の東進に伴い一時的にB型となる。
- ・ 房総沖では、離接岸を繰り返す。

#### (2) 薩南～房総沿岸域

- ・ 潮岬以西では、黒潮の離接岸に伴って一時的に暖水が波及することがある。
- ・ 熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、概ね冷水域に覆われる。黒潮流路の変動に伴い、内側域への暖水波及がある。
- ・ 伊豆諸島南部海域は、概ね冷水域に覆われる。3月と5月に一時的に暖水域に入る。

#### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 沿岸に一時的に暖水が波及することがある。冷水の波及は少ない。

#### (4) 沿岸水温

- ・ 潮岬以西は「平年並」～「低め」で推移する。小蛇行の東進に伴い変動する。
- ・ 熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、「平年並」～「低め」で推移する。暖水波及時には「高め」となる。
- ・ 伊豆諸島南部海域は、「低め」で推移する。3月と5月には一時的に「高め」となる。
- ・ 房総沿岸域は、「平年並」～「やや高め」で推移する。
- ・ 鹿島灘～常磐南部海域は、「平年並」～「やや高め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、  
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上

## 経過 (2013年7月～12月) (注:経過は図2を参照のこと)

### (1) 黒潮

- ・8月上旬、C型からB型になった。
- ・9月上旬以降、C型で経過した。

### (2) 薩南～房総沿岸域

#### ◎薩南海域

- ・7月～11月、黒潮北縁の月平均位置は接岸傾向で推移した。

#### ◎潮岬以西

- ・7月以降、都井岬～足摺岬沖で黒潮は接岸傾向で推移した。
- ・7月、潮岬沖を小蛇行が通過した。
- ・8月下旬以降、室戸岬～潮岬沖で黒潮は「接岸」～「やや離岸」で推移した。

#### ◎潮岬以東

- ・7月上旬、熊野灘で沿岸湧昇が発生し、その後沖合まで冷水が広がった。
- ・7月中旬～下旬、黒潮の北上部が熊野灘～遠州灘付近を東進した。
- ・8月、遠州灘から熊野灘へ黒潮から暖水が波及した。
- ・10月上旬～中旬、熊野灘から遠州灘へ暖水が波及した。
- ・11月上旬～中旬、熊野灘へ南から暖水が波及した。
- ・12月上旬、伊豆諸島北部から遠州灘沖へ暖水が波及した。
- ・8月、伊豆諸島南部海域は暖水域に入っていたが、9月以降は概ね冷水域に覆われた。
- ・房総沖での黒潮は、7月上旬に接岸していたが、7月中旬～8月中旬は大きく離岸した。9月中旬にはまた接岸したが、10月中旬に離岸した。12月上旬には再び接岸した。

### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・7月上旬、沿岸域を中心に冷水が波及した。
- ・8月、暖水が広く波及した。
- ・9月～10月、下層に冷水が波及した。
- ・11月、暖水が広く波及した。

## 現況 (2013年12月12日現在)

### (1) 黒潮

- ・ C型流路である。

### (2) 薩南～房総沿岸域

#### ◎潮岬以西

- ・ 黒潮は、都井岬～足摺岬で「接岸」、室戸岬～潮岬で「やや離岸」している。

#### ◎潮岬以東

- ・ 熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域および伊豆諸島南部海域は概ね冷水域に覆われている。
- ・ 遠州灘沖の黒潮内側域に暖水域が形成されている。
- ・ 野島埼沖で黒潮は接岸している。

### (3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 暖水波及の影響は弱まりつつある。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

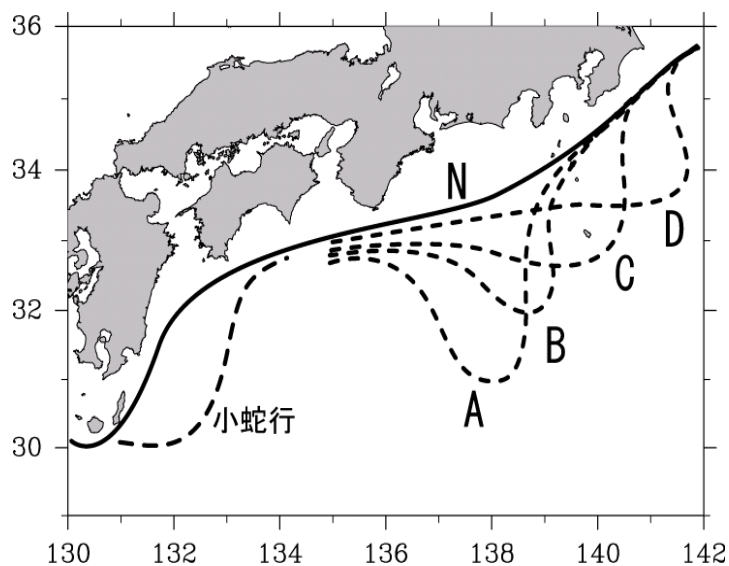


図1 黒潮流型の分類

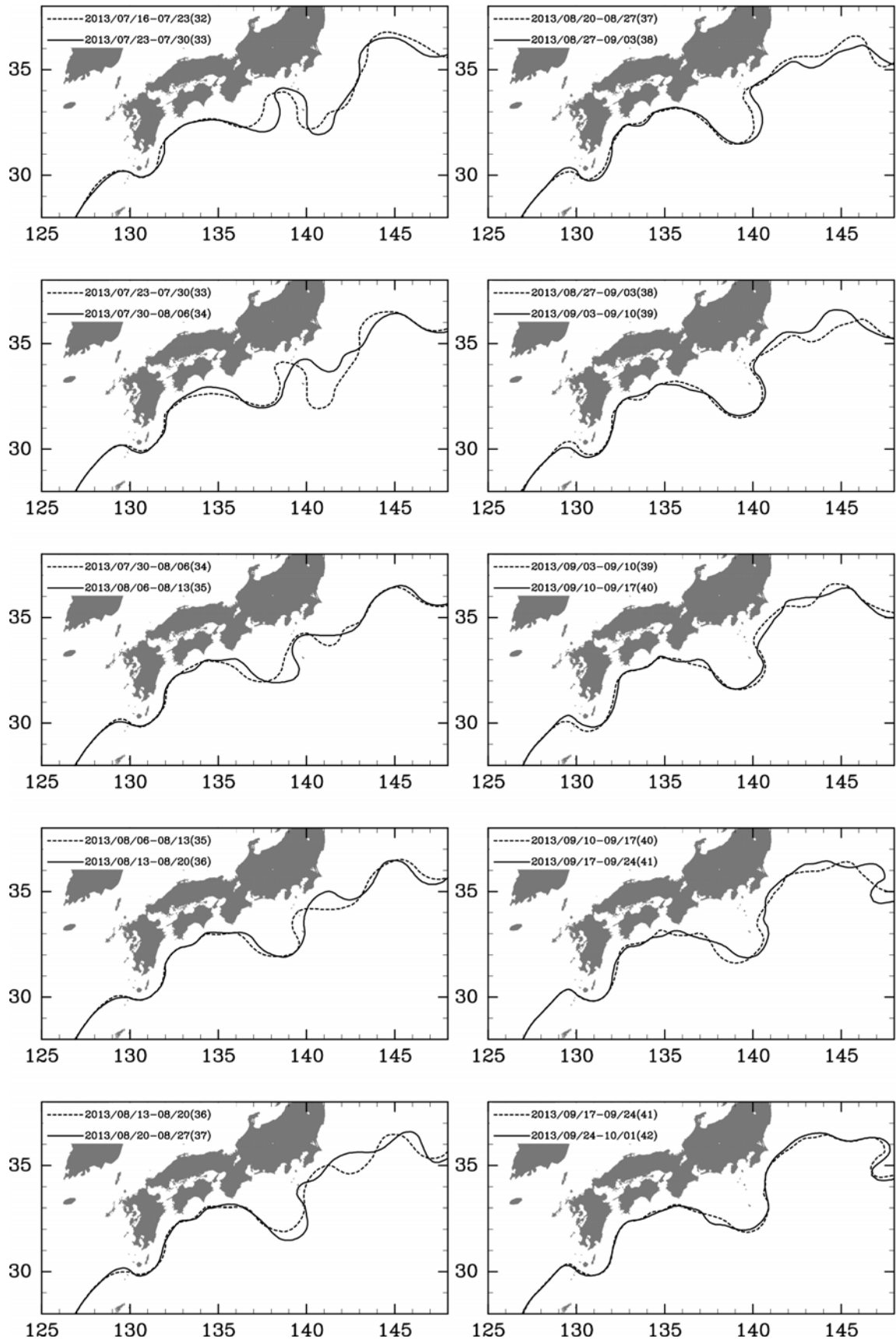


図2 黒潮流軸のパターン

(2013年7月~12月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

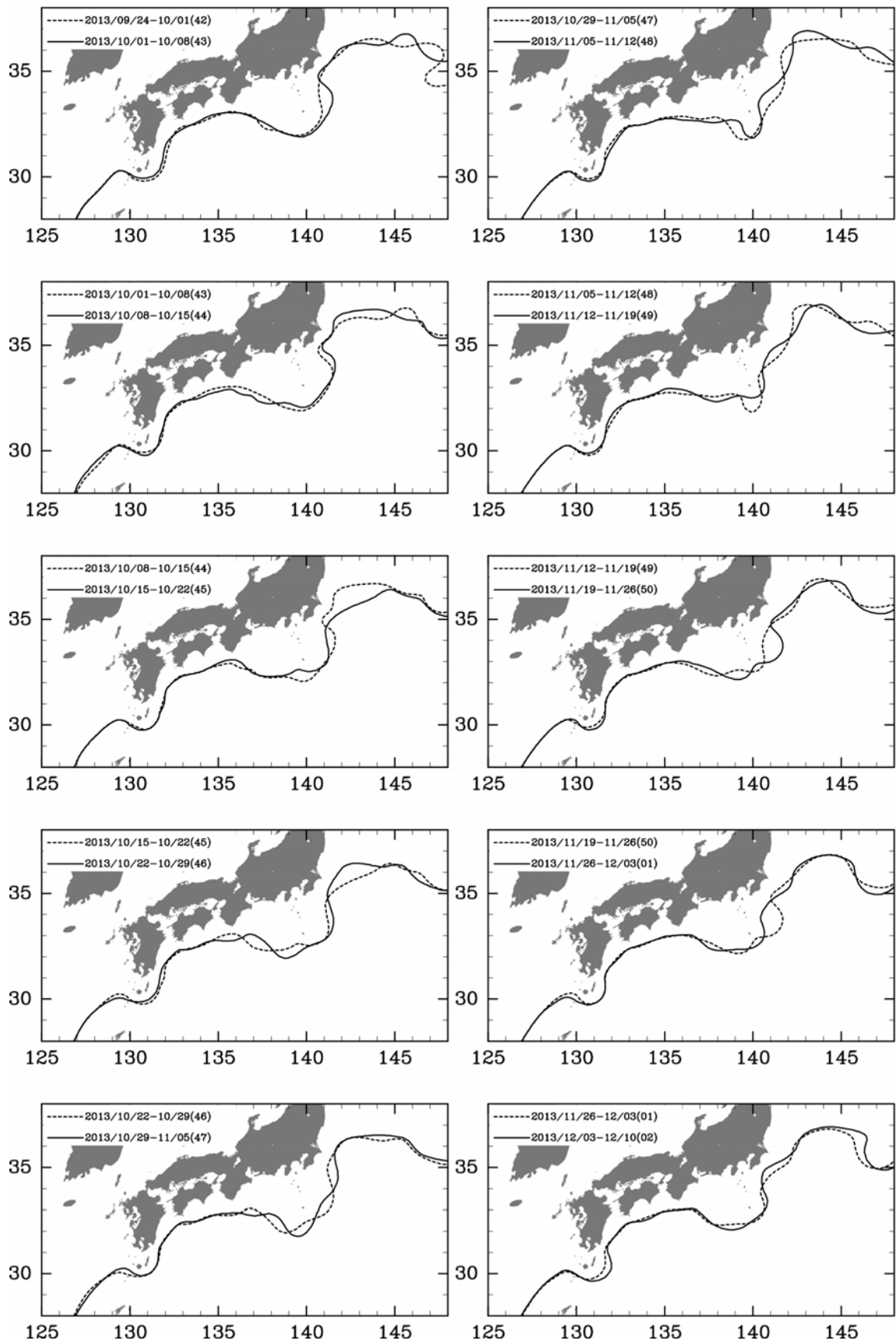


図2 (続き) 黒潮流軸のパターン

(2013年7月~12月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

## マサバおよびゴマサバ太平洋系群等の漁況予報

### 今後の見通し（2014（平成26）年1月～6月）

対象海域：薩南～豊後水道南部～土佐湾、紀伊水道外域、熊野灘、伊豆諸島周辺海域、犬吠～三陸海域

対象漁業：まき網、定置網、棒受網、たもすくい等

対象魚群：1歳魚（2013（平成25）年級群）、2歳魚（2012（平成24）年級群）、  
3歳魚（2011（平成23）年級群）、4歳魚（2010（平成22）年級群）、  
5歳（2009（平成21）年級群）以上。年初に加齢。魚体は尾叉長。

#### 1. 薩南～豊後水道南部～土佐湾（まき網、定置網等）

- (1) 来遊量：マサバは低水準。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳以上は前年を下回る。サバ類全体としては、薩南～日向灘～豊後水道南部西側では前年を下回り、豊後水道南部東側～土佐湾では前年を上回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となる。薩南では29cm～36cm（2、3歳魚）。日向灘～豊後水道南部西側では期前半は29cm～33cm（2歳魚）主体で期後半は25cm～29cm（1歳魚）主体、豊後水道南部東側～宿毛湾では25cm～30cm（1歳魚）主体。土佐湾では25cm～36cm（1～3歳魚）。

#### 2. 紀伊水道外域（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバは低水準だが漁獲対象となる。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を上回る。3歳魚は前年を下回る。4歳魚は前年を下回る。5歳魚は前年を上回る。サバ類全体としては前年並か上回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、28cm～37cm（2、1歳魚主体、3歳以上も）。マサバは25cm～34cm主体（1、2歳魚）。

#### 3. 熊野灘（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバは前年を上回る。ゴマサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を上回る。3歳魚は前年を下回る。4歳魚は前年を下回る。5歳以上は前年を上回る。ゴマサバとしては前年を下回る。サバ類全体としては多かった前年を下回る。
- (2) 漁期：期を通じて漁獲される。
- (3) 魚体：ゴマサバが主な漁獲対象となり、期前半は30cm～40cm（3～5歳魚）主体、後半は22cm～34cm（1、2歳魚）主体。マサバは18cm～40cm（1、4歳魚主体）。

#### 4. 伊豆諸島周辺海域（棒受網、たもすくい）

- (1) 来遊量：マサバ2歳魚は前年を上回る。3歳魚は前年を下回る。4歳魚は前年を下回る。5歳魚は前年を上回る。マサバとしては前年並。ゴマサバ1歳魚は前年を下回る。2歳魚は前年を上回る。3歳魚は前年を上回る。ゴマサバとしては前年を上回る。サバ類全体としては前年を上回る。
- (2) 漁期・漁場：マサバは伊豆諸島北部海域が主漁場となり、三宅島周辺海域にも漁場が形成される。ゴマサバは期を通じて三宅島周辺海域が主漁場となるが、マサバに混獲される場合は伊豆諸島北部海域にも漁場が形成される。
- (3) 魚体：マサバは30cm～32cm（2歳魚）と35cm以上（4、5歳魚）が主体。ゴマサバは28cm～34cm（2、3歳魚）主体に24cm～27cm（1歳魚）も漁獲され、34cm以上（4歳以上）も混じる。

#### 5. 犬吠～三陸海域（まき網、定置網）

- (1) 来遊量：マサバ1歳魚は前年を上回る。2歳魚は前年を上回る。3歳魚は前年を下回る。4歳魚は前年を下回る。5歳魚は前年を上回る。マサバとしては前年を上回る。ゴマサバとしては少なかった前年を上回る。サバ類全体としては前年を上回る。
- (2) 漁期・漁場：まき網では犬吠～常磐南部海域で期を通じて漁獲される。三陸南部海域の定置網では5月以降漁獲される。
- (3) 魚体：マサバは23cm～25cm前後（1歳魚）主体に30cm以上（主に2、4歳魚）も漁獲される。ゴマサバは23cm～25cm前後（1歳魚）が漁獲される。



## 漁況の経過（2013年7月～11月）および見通し（2014年1月～6月）についての説明

### 1. 資源状態

#### (1) マサバ

資源量は1990～2000年代に低い水準にあったが、近年の加入量水準の高い年級群の発生により資源量が増加している。

2009年級群（5歳魚）の加入量水準は近年では高く、残存資源量は高齢となって少なくなっているが近年の5歳魚としては多い。

2010年級群（4歳魚）は、8月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入尾数が16億尾であり、近年では比較的高い水準と推定され、これまでの各地漁業で漁獲されている。残存資源量は近年の4歳魚としては比較的多い。

2011年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が7億尾と近年の平均を下回る水準である。

2012年級群（2歳魚）は、最近年のため不確実性は高いが、加入尾数が近年において比較的高い水準の18億尾と推定され、これまでの各地漁業で漁獲されている。6月～10月の三陸～道東海域流し網調査（釧路水試）のCPUE（1歳魚）は49.9尾/回であり、1994年以降の同調査で2009年級群に次いで2番目に高かった。9月～10月の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）でも漁獲が見られ、漁場外の沖合域にも多く分布していた。残存資源量は近年の2歳魚としては比較的多い。

2013年級群（1歳魚）は、これまでまき網、定置網漁業などで漁獲がみられている。8月時点の資源評価では、5月～7月の調査船調査の結果から加入尾数を近年では卓越して高い水準の49億尾と推定した。その後の三陸～道東海域流し網調査でのCPUEは28.2尾/回であり、1994年以降の同調査において2番目に高かった。秋季北西太平洋中層トロール調査の出現率は84.2%、平均CPUEは838.2尾/網であり、2001年以降の同調査で最も高かった。加入量は近年では卓越して高い水準と判断される。

#### (2) ゴマサバ

資源量は1990年代後半以降高い水準にある。0歳時に黒潮 - 親潮移行域を回遊して加入する群が資源の主な部分を占めるようになっている。

2009年級群（5歳魚）の加入量水準は近年では高いが、残存資源量は高齢となって少なくなっている。

2010年級群（4歳魚）は、8月時点の資源評価（コホート解析）による推定加入尾数が14億尾であり、近年では比較的高い水準と推定され、これまで各地の漁獲対象となっている。

2011年級群（3歳魚）は、推定加入尾数が12億尾と近年の平均を上回る水準である。

2012年級群（2歳魚）は、最近年のため推定値の不確実性は高いが、加入尾数が近年では比較的高い水準の14億尾と推定され、これまでの各地漁業で漁獲されている。三陸～道東海域流し網調査のCPUE（1歳魚）は30.8尾/回であり、1994年以降の同調査で2009年、2004年級群に次いで3番目に高かった。秋季北西太平洋中層トロール調査でも漁獲が見られ、漁場外の沖合域にも多く分布していた。残存資源量は近年の2歳魚としては比較的多い。

2013年級群（1歳魚）は、これまで各地で漁獲がみられている。8月時点の資源評価では、5月～7月の調査船調査の結果から加入尾数を近年では高い水準の24億尾と推定した。その後の三陸～道東海域流し網調査でのCPUEは7.2尾/回であり、1994年以降の同調査において中位程度であった。静岡県棒受網CPUEによる資源密度指数（0歳時11月までの累計値）は、2012年を下回るが2011年を上回っている。秋季北西太平洋中層トロール調査の出現率は73.7%、平均CPUEは21.6尾/網であり、2001年以降の同調査において出現率は最も高かった。加入量は近年では比較的高い水準と推定されるが不確実性は高い。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

### 1) マサバ

#### (1) 来遊量

資源状態の項で述べた通り、これまで得られている情報から、1 歳魚（2013 年級群）は近年では高い加入量水準と判断され、来遊量は前年を上回る。2 歳魚（2012 年級群）は近年では比較的高い加入量水準であり、来遊量は少なかった前年を大きく上回る。3 歳魚（2011 年級群）は近年の平均を下回る加入量水準であり、来遊量は前年を下回る。4 歳魚（2010 年級群）は近年では比較的高い加入量水準であり、来遊量は前年 4 歳魚（2009 年級群）を下回るが、近年の 4 歳魚としては比較的多い。5 歳（2009 年級群）以上は残存資源量が少なくなっているが近年としては多く、漁獲対象となる。マサバ全体としては前年を上回る。熊野灘以西の海域では、来遊量は少なくサバ類に占めるマサバの割合は低いが、熊野灘では前年よりもマサバの割合が上昇する。

#### (2) 漁期・漁場、魚体

まき網漁場は、7 月～8 月上旬は鹿島灘～犬吠海域、金華山周辺、および三陸北部海域に、8 月下旬～9 月は三陸北部海域、道東海域に形成され、10 月上旬に三陸南部～金華山沖にも形成された後、10 月中旬以降は金華山沖、鹿島灘～犬吠海域が主体となった。7 月～11 月の犬吠以北海域におけるまき網による漁獲量は 6.1 万トンと前年同期（5.3 万トン）を上回った。千葉県以北の定置網等による漁獲量は 5.8 千トンと前年同期（4.4 千トン）を上回った。伊豆諸島以西の海域ではおもにゴマサバに混獲され、漁獲量は 1.4 千トン（前年同期 1.3 千トン）であった。（漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値）

犬吠以北海域では、本予測期間は鹿島灘～犬吠海域が主漁場となると考えられる。伊豆諸島周辺海域では、漁場形成は黒潮流路変動に強く影響される。黒潮流路は、概ね C 型で推移し、3 月、5 月に都井岬沖からの小蛇行の東進に伴い一時的に B 型となる、と予測されており、黒潮からの暖水波及により漁場が形成されると考えられる。北部海域（大室出しから利島、ヒョウタン瀬）が主漁場となり、三宅島周辺でも漁場が形成される。熊野灘～紀伊水道外域ではマサバ主体の漁場形成もみられる。豊後水道南部～薩南ではゴマサバに混獲される程度となる。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次の通りである。

1 歳魚（2013 年級群）：28cm 以下、2 歳魚（2012 年級群）：28cm～32cm、3 歳魚（2011 年級群）：32cm～34cm、4 歳魚（2010 年級群）：34cm～38cm、5 歳（2009 年級群）以上：36cm 以上。

### 2) ゴマサバ

#### (1) 来遊量

資源状態の項で述べた通り、これまで得られている情報から、1 歳魚（2013 年級群）は比較的高い加入量水準と推定され、来遊量は前年を上回る。2 歳魚（2012 年級群）は近年では比較的高い加入量水準であり、来遊量は前年を上回る。3 歳魚（2011 年級群）は近年の平均を上回る加入量水準と推定され、来遊量は前年を下回る。4 歳魚（2010 年級群）は比較的高い加入量水準であるが、残存資源量は少なくなっている。5 歳魚（2009 年級群）は残存資源量が少なくなっているが近年としては多く、漁獲対象となる。ゴマサバ全体としての来遊量は海域によって異なり、伊豆諸島周辺以北、紀伊水道外域～豊後水道南部東側の海域では概ね前年を上回り、熊野灘では多かった前年を下回り、豊後水道南部西側～薩南では前年を下回る。

#### (2) 漁期・漁場、魚体

7 月～11 月の漁況は、薩南～熊野灘の各海域では、0 歳魚（2013 年級群）～4 歳魚（2009 年級群）を主な対象に前年を下回る海域が多かった。駿河湾周辺のまき網では前年を下回った。伊豆諸島周辺海域では

1歳魚（2012年級群）主体で0～2歳魚を主な対象に前年を下回った。犬吠以北海域のまき網では、1～3歳魚を主な対象に前年をやや下回った。7月～11月の漁獲量は、薩南～紀伊水道外域は6.1千トン（前年同期実績8.5千トン）、熊野灘～伊豆諸島周辺海域は1.6万トン（同2.0万トン）、犬吠以北海域のまき網は2.9万トン（同3.5万トン）、千葉県以北の定置網などが8.6千トン（同8.1千トン）であった。（漁獲量は各地主要港水揚げ資料および水揚げ物標本測定結果等からの推定値）

本予測期間における各地の漁期・漁場および魚体は、薩南では2歳魚（2012年級群）、3歳魚（2011年級群）主体に、日向灘～豊後水道南部西側では期前半は2歳魚主体で期後半は1歳魚（2013年級群）主体に、豊後水道南部東側～宿毛湾では1歳魚主体に、土佐湾では1～3歳魚を対象に、紀伊水道外域～熊野灘では1～5歳魚を対象に、期を通じて漁場が形成される。伊豆諸島周辺海域では2、3歳魚主体に1歳魚も対象に期を通じて近年の主漁場である三宅島周辺海域を中心に漁場が形成される。犬吠以北海域では1歳魚主体に犬吠海域～鹿島灘で漁獲される。

年齢別尾叉長は、これまでの体長組成の推移、年齢査定の結果から概ね次の通りである。

1歳魚（2013年級群）：30cm以下、2歳魚（2012年級群）：29cm～32cm、3歳魚（2011年級群）：30cm～34cm、4歳魚（2010年級群）：32cm～37cm、5歳（2009年級群）以上：33cm以上。

## マアジ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2014(平成26)年1月～6月）

対象海域:北薩～熊野灘、相模湾

対象漁業:まき網、定置網

対象魚群:0歳魚(2014(平成26)年級群)、1歳魚(2013(平成25)年級群)、

2歳魚(2012(平成24)年級群)、3歳魚(2011(平成23)年級群)。年初に加齢。魚体は尾叉長。

### 1.北薩～土佐湾(まき網、定置網)

(1)来遊量:いずれの海域も前年を上回る。1歳魚主体となり、期後半に0歳魚が加わる。

(2)魚体:主体となる1歳魚は15cm～22cm、2歳魚は22～26cm、期の後半に加わる0歳魚は13cm以下。

### 2.紀伊水道外域～熊野灘(まき網、定置網)

(1)来遊量:紀伊水道外域西部では1歳魚主体に前年並～下回る。東部では2、3歳魚主体に低水準ながら前年を上回る。熊野灘では1歳魚主体に前年並の低水準となる。

(2)魚体:紀伊水道外域西部・熊野灘で主体となる1歳魚は15cm～22cm。紀伊水道外域東部で主体となる2、3歳魚は25cm～30cm。期の後半に加わる0歳魚は13cm以下。

### 3.相模湾(定置網)

(1)来遊量:前年並の低水準となる。

(2)魚体:主体となる1歳魚は15cm～22cm。期の後半に加わる0歳魚は13cm以下。

## 漁況の経過(2013年8月～11月)および見通し(2014年1月～6月)についての説明

### 1. 資源状態

資源量は1986年以降増加し、1990年代半ばは15万トン～16万トンと高い水準で推移したが1997年からは減少に転じ、2001年に増加したものの2005年以降は減少が続いている。現在の資源量は5万トン～6万トン程度であり、資源水準は低位、動向は減少傾向にある。

2011年級群(3歳魚)以上は、残存資源量が少なく、漁獲の主体とはならない。

2012年級群(2歳魚)は、加入から現在までの累積漁獲尾数が2011年級群同時期の漁獲尾数を下回っていること、各沿岸域での当歳魚の漁獲状況から算出される加入量指数が2011年を下回ったことから、年級豊度は高くないと考えられる。1歳魚(2013年級群)とともに漁獲対象となるが、残存資源量は少ないと考えられる。

2013年級群(1歳魚)は、今期の漁獲の主体となる。これまでの漁況は低水準であった前年を上回り、特に北薩～宿毛湾にかけての海域では好漁であった。一方、紀伊水道外域より東の海域では前年並の低い水準で推移している。2013年4月～11月までの各沿岸域での漁獲状況から判断される加入量水準は、前年(2012年級群)を上回るもの的高くはないと考えられる。

2014年級群(0歳魚)は、いずれの海域でも今期の後半に漁獲対象になるが、現時点では予測根拠となる情報は得られない。

## 2. 来遊量、漁期・漁場

来遊量については、海域ごとに、前期の漁況に基づき予測した。なお、本魚種は、予測期間を通じて漁獲対象となる。

### (1) 北薩～土佐湾

いずれの海域も1歳魚(2013年級群)が主体となる。

北薩～薩南海域における1歳魚(2013年級群)の来遊水準は、前期の漁獲状況から近年では比較的多いと考えられ、2、3歳魚(2011、2012年級群)も11月に好漁が見られたことから、全体としては前年を上回ると考えられる。

日向灘では、前年7月～12月の漁獲量(0歳魚主体)と当年1月～5月の漁獲量(1歳魚主体)に正の相関関係がみられ、2013年下半期の漁況が前年同期を大きく上回ったことから、1歳魚(2013年級群)の来遊量は前年を上回ると予測される。

豊後水道南部西側では、2013年8月～11月のまき網漁獲量(0歳魚主体)が前年同期間と比較して増加していること、定置網(標本船日誌1ヶ統)で2013年8月～11月に漁獲されたゼンゴおよび小アジ銘柄の漁獲量が前年同期に比べ増加したことから、全体として来遊量は前年を上回ると予測される。

豊後水道南部東側では、前年7月～9月の0歳魚の漁獲量と、当年1歳魚の漁獲量に正の相関関係がみられ、2013年7月～9月における0歳魚(2013年級群)の漁獲量は前年同期(2012年7月～9月)を上回ったことから、今期の1歳魚(2013年級群)の来遊量は前年を上回ると予測される。

宿毛湾・土佐湾では、まき網・定置網ともに前期の0歳魚(2013年級群)の漁獲量が前年を上回ったことから、今期1歳魚(2013年級群)の来遊量は前年を上回ると予測される。

### (2) 紀伊水道外域～熊野灘

紀伊水道外域西部では、前期の漁獲量は前年並であり、今期の1歳魚(2013年級群)の来遊水準は、加入量水準が高くないと考えられることから、前年並～下回ると予測される。

紀伊水道外域東部では、前期は1、2歳魚(2011、2012年級群)主体となり、漁獲量は極めて低い水準であった前年を上回った。今期も2、3歳魚(2011、2012年級群)が主体となり、来遊量は極めて低水準ながら前年を上回ると予測される。

熊野灘への来遊量は近年極めて低調で推移しており、今期も前年を上回る来遊は見込めず、来遊量は前年並の極めて低い水準と予測される。

### (3) 相模湾

伊豆東岸並びに西湘地区とも、2013年7月～11月の漁獲量は、極めて低調であった前年を下回っており、今期も前年を上回る来遊は見込めない。1歳魚(2013年級群)が主体となり、来遊量は前年並の低水準と予測される。

## マイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2014（平成26）年1月～6月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2014（平成26）年級群）、1歳魚（2013（平成25）年級群）、  
2歳魚（2012（平成24）年級群）、3歳魚（2011（平成23）年級群）、  
4歳魚（2010（平成22）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

### 1. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩海域、薩南海域、豊後水道南部東側、熊野灘では前年を下回る。豊後水道南部西側では前年を上回る。日向灘、宿毛湾、土佐湾では前年並～下回る。紀伊水道外域では前年並～上回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：14cm～19cmの1歳魚が主体となる。熊野灘では18cm以上の2歳魚以上が混じる。

### 2. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：伊勢・三河湾、渥美外海では前年並。駿河湾および相模湾では前年並～上回る。

(2) 漁期・漁場：伊勢・三河湾、渥美外海では期の後半に、駿河湾、相模湾では期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では0歳魚が主体となる。駿河湾、相模湾では18cm～22cmの2歳魚を主体に14cm～18cmの1歳魚が混じる。

### 3. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年並～下回る。

(2) 漁期・漁場：房総～常磐南部海域では期を通じて、仙台湾～三陸海域では6月以降にまき網漁場が形成される。道東海域ではまき網漁場は形成されない。仙台湾～三陸南部海域の定置網については3月まで漁獲が継続した後、5月以降に再び漁獲がある。

(3) 魚体：1～4歳魚。1歳魚は12cm～17cm、2歳魚は17cm～21cm、3歳魚以上は20cm～23cm。

漁況の経過（2013年8月～11月）および見通し（2014年1月～6月）についての説明

### 1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は1994年に100万トンを下回り、1999年までは70万トン～90万トン台で推移した後、再び減少傾向となった。2002年以降は20万トン未満で推移していたが、近年は増加傾向がみられる。

2010年級群は、0歳魚時点での調査船調査結果から近年では極めて高い水準であることが示唆された。漁業においても、2010年秋以降の三陸・道東海域に出現した後、2011年漁期前半には房総海域におけるまき網で多獲され、未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）は5.36と最近10年間で最大となり、漁獲の主体として2011年漁期の好漁を支えた。2012年漁期の愛知県以東海域における2010年級群（2歳魚）の漁獲尾数（5.1億尾）は同漁期同海域における全漁獲尾数（12億尾）の4割を占め、2013年漁期前半における房総周辺のまき網漁獲物においても全体の1割を占めた。夏秋季の道東海域におけるまき網においても、2011年（約2千トン）および2012年（約6千トン）には2010年級群主体に、また2013年（約18千トン）は2011年級群とともに漁獲の大半を占めた。以上のように2010年級群は近年では非常に高水準の年級群であり、今期も4歳魚として漁獲対象になるが、残存資源量は少ないと考えられる。

2011年級群は、0歳魚時点での調査船調査結果から、2010年級群には及ばないものの近年では比較的高水準の年級群であることが示唆された。2011年漁期の春～秋にかけて、東京湾以西の海域における0歳魚の漁獲は前年を大きく上回り、また同年10月以降の八戸の2そうまきでまとまって漁獲されるなど、太平洋沿岸域の広い範囲で加入・漁獲がみられ、2012年漁期前半には熊野灘でも1歳魚として漁獲の主体となった。未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）は0.65と2010年級群の1割強に留まったが、その後2010年級群とともに2012年漁期の常磐・房総海域におけるまき網漁獲物の主体となった。2013年漁期においても、房総周辺のまき網では漁期前半における漁獲尾数の3割を占め、三陸南部のまき網と定置網では漁獲の主体となり、道東海域のまき網では2010年級群とともに

に漁獲の主体となるなど、今期も主たる漁獲対象になると考えられる。

2012年級群は、0歳魚時点での調査船調査結果から、2010年級群には及ばないものの2011年級群を上回る水準の年級群であることが示唆された。漁業では、相模湾以西の沿岸各地で0歳魚の漁獲（マシラスを含む）が前年を下回ったものの、2012年11月下旬以降の常磐・房総海域における0歳魚の漁獲は前年を上回り、未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）は2.22と2010年級群に次ぐ2番目の高さを示した。2013年漁期前半においても、熊野灘～房総周辺にかけての多くの海域で漁獲の主体となり、漁期後半には三陸南部の定置網や八戸沖のまき網に出現した。今期も特に東日本海域では2011年級群、2013年級群とともに主たる漁獲対象になると考えられる。

2013年級群は、産卵量段階では（前年10月～6月、I～IV区）244兆粒と前年（192兆粒）ならびに前々年（120兆粒）を上回った。2013年6月の移行域幼稚魚調査（中央水研）に基づく加入量指数は139.1で、2010年級群の391.4には至らないものの2012年級群の123.2を上回り、1996年の調査開始以降3番目に高い値を示した。一方、北西太平洋サンマ資源調査（東北水研）による移行域～親潮域における2013年級群（0歳魚）の推定分布量は7.7億尾で、2009年以前の結果を上回るものの2010年～2012年の分布量を下回る結果となった。2013年9月～10月にかけて千島列島東方沖合にて実施した秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）の結果からは、同年春の調査結果に基づき予測した高い豊度には至らないものの、特に低いわけではないと考えられた。漁業においては、マシラス漁業では土佐湾、渥美外海および常磐海域では前年を上回る漁獲があったものの、他の海域では前年を下回った。未成魚については、前期の房総海域のまき網や三陸沿岸定置に出現はしているものの、量的には多いものではない。今後、未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）等の情報を加えながら、その豊度について判断することとなる。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

### (1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

来遊量：紀伊水道外域以西における今期前半の主たる漁獲対象は1歳魚で、今期後半は0歳魚に移行する。北薩、薩南海域では、1歳魚については前期0歳魚の好漁から前年並の来遊量が期待される一方、0歳魚については好調であった前年の来遊量には至らないと考えられ、全体として前年を下回ると予測される。日向灘については、前期の宿毛湾や熊野灘における漁況と今期1歳魚の来遊量の間に関係がみられており（上半期まき網漁獲量予測値）、その結果から今期1歳魚の来遊量は前年を下回ると予測される。豊後水道南部ならびに宿毛湾、土佐湾では、前期0歳魚の漁況が低調であったことから、今期の1歳魚の来遊量についても、豊後水道南部東側では前年を下回り、宿毛湾、土佐湾では前年並～下回ると予測される。なお、豊後水道南部西側については、前年同期の漁獲量がわずか1トンと極めて少なかったことから、今期は低調ながらも前年は上回ると予測される。紀伊水道外域西部では、前期0歳魚の漁況が好調であったことから、今期の1歳魚の来遊量も前年を上回ると予測される。紀伊水道外域東部では、前期の0歳魚の漁況は低調であったが、紀伊水道外域東部～熊野灘における1そうまき網の漁獲量が増加傾向にあること等から、今期の1歳魚の来遊量の増加を見込んで前年並と予測される。なお、日向灘～紀伊水道外域にかけての海域では期の後半に漁獲の主体が0歳魚に移行するが、0歳魚については現段階での予測が困難なため、1歳魚の予測結果を以て各海域の予測とした。

熊野灘における漁獲対象は1歳魚が主体で2歳魚以上が加わる。今期熊野灘において漁獲対象となる1歳魚は、房総海域に南下する未成魚越冬群の一部で、その来遊には北西太平洋における資源状況ならびに三陸沖～房総海域の海況が関係すると考えられるが、いずれも今期の1歳魚の来遊量増加を支持する条件にはない。このため今期主体となる1歳魚の来遊量は前年を下回ると考えられる。2歳魚以上は産卵回遊の過程で来遊するが、こちらも海況条件から今期の来遊量は前年を下回ると考えられる。これらを総合して、今期の熊野灘における来遊量は前年を下回ると予測される。

漁期：期を通じて漁獲される。

魚体：紀伊水道外域以西では、体長16cm～19cmの1歳魚が漁期前半における漁獲の主体となり、期の後半には体長5cm～12cmの0歳魚が主体となる。熊野灘では体長14cm～19cmの1歳魚が主体となり、これに体長18cm以上の2歳魚以上が混じる。

(2)伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

来遊量：今期の伊勢・三河湾、渥美外海で漁獲の主体となるのは0歳魚である。近年の傾向から高い漁獲量は望めず、前年並の来遊量と予測される。今期の駿河湾、相模湾で漁獲の主体となるのは2歳魚で、これに1歳魚が混じる。前期の駿河湾では0歳魚、1歳魚を主体に前年を上回る漁獲となったのに対して、相模湾では定置網、まき網ともに0歳魚主体で不漁であった。今期駿河湾ならびに相模湾で漁獲対象となる1歳魚および2歳魚は、ともに南下過程で本海域に来遊すると考えられるが、南下群の動向が現状では不明であることから、前期の漁況ならびに各年級群の資源豊度を考慮し、今期の来遊量は前年並もしくは上回ると予測される。

漁期・漁場：伊勢・三河湾ならびに渥美外海では4月以降に漁獲される。駿河湾、相模湾南部（静岡県域）のまき網では2月～6月に漁獲される。相模湾北部（神奈川県域）では期を通じて漁獲される。

魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では0歳魚が漁獲の主体となる。駿河湾および相模湾では18cm～22cmの2歳魚を主体に14cm～18cmの1歳魚が加わる。

(3)房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

来遊量：今期の漁獲対象は1～4歳魚である。このうち、回遊の時期と経路の関係から、1歳魚については期を通じて本海域に分布し漁獲対象となるのに対して、2歳魚以上の成魚は今期序盤に本海域を通過して南へ移動する際と今期終盤に再び本海域を通過して北上する際に漁獲対象となる。そのため、成魚が本海域より南に分布する2月～4月の期間は、本海域に留まる1歳魚が漁獲の主体となる。1歳魚は、2013年秋季に実施した北西太平洋中層トロール調査の結果からは、同年春の調査結果に基づき予測した高い豊度には至らないものの、特に低いわけではないと考えられた。一方、漁業の現場では、前期の房総海域のまき網や三陸沿岸定置網に出現はしているものの、量的には多いものではない。正確な豊度の判断は未成魚越冬群資源量指数としての出現状況を持つ必要があるが、今期の来遊量は前年並～下回ると考えられる。2歳魚は、予測される資源豊度は2011年級群を上回っており、また前年同期のまき網漁業ならびに前期の三陸南部定置網においてまとまって漁獲されていることから、今期も前年と同程度あるいはそれを上回る来遊があると考えられる。3歳魚は、前年同期の房総周辺海域において2012年級群とともにまとまって漁獲され、夏以降は道東沖のまき網において2010年級群とともに漁獲の主体となったことから、今期も残存資源の来遊が期待されるが、卓越年級群であった前年3歳魚の来遊量は下回ると考えられる。4歳魚は近年では非常に高い水準の卓越年級群であり、前年同期の仙台湾～三陸南部海域では2011年級群とともに漁獲の主体となり、さらに夏以降には道東海域のまき網において2011年級群とともに漁獲の主体を占めており、今期の来遊量は前年4歳魚を上回ると考えられるが、残存資源量は少ないと考えられる。以上が各年級群それぞれの来遊量予測となるが、今期は特に1歳魚が漁獲対象となる期間が長いことから、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

漁期・漁場：まき網漁場は、房総～常磐南部海域では1月には南下成魚群を含んである程度まとまって、2月以降は本海域に留まる1歳魚を主体に断続的に形成される。5月には再び成魚群を含むまとまった漁場が形成される。仙台湾～三陸海域では6月以降に漁場が形成される。なお常磐北部海域は、現在まき網の操業自粛措置がとられている。道東海域ではまき網漁場は形成されない。仙台湾～三陸南部海域の定置網では3月まで漁獲が継続し、一旦漁獲が途切れた後、5月以降に再び漁獲される。

魚体：1～4歳魚が漁獲され、1歳魚については1月～3月は12cm～16cm、4月～6月には14cm～17cm、2歳魚は17cm～21cm、3歳魚以上は20cm～23cmとなる。



## カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2014（平成26）年1月～6月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2014（平成26）年級群）、1歳魚（2013（平成25）年級群）、および2歳魚（2012（平成24）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

### 1. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩～薩南では前年を下回る。日向灘では前年並～下回る。豊後水道南部～土佐湾では前年並～上回る。紀伊水道外域ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期：全期間。

(3) 魚体：11cm以下の1歳魚および12cm以上の2歳魚。

### 2. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘では前年を下回る。伊勢・三河湾～渥美外海では前年を下回る。駿河湾～相模湾では前年並～下回る。

(2) 漁期：全期間。伊勢・三河湾～渥美外海および駿河湾～相模湾では4月以降に漁獲がある。

(3) 魚体：伊勢・三河湾～渥美外海では12cm以下の1歳魚主体。その他の海域では10cm～14cmの1歳魚および2歳魚。

### 3. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：まき網は常磐南部～房総海域で全期間。三陸南部の定置網は2月までと5月以降。三陸北部、道東の定置網ではほとんど漁獲がない。

(3) 魚体：2月まで12cm以上の2歳魚主体、3月以降9cm～11cmの1歳魚主体。

## 漁況の経過（2013年8月～11月）および見通し（2014年1月～6月）についての説明

### 1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の推定資源量は1998（平成10）年から2010（平成22）年まで70万トン～150万トンで推移し、2012（平成24）年の資源量は55万トンと推定された。資源水準は過去30年で中位、動向は5年間で減少傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく黒潮 - 親潮移行域まで広く分布する。

2012年級群（2歳魚）は、2013年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）および同年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）において、10cm以上の魚体で漁獲され、現存量、有漁点CPUEはいずれも低水準であった。2013年8月～10月の道東海域では、まき網による漁獲がなく、2000年以来13年ぶりに漁場が形成されなかった。秋季の道東海域流し網調査（釧路水試）において、CPUEは1994年以降で最低となり低水準であった。また、前年11月～本年6月までの常磐・房総海域での12cm未満（1歳魚主体）の漁獲量は12千トンで、前年（47千トン）、前々年（24千トン）を下回った。これらの動向から、2012年級群は低水準であり、今後ほとんど漁獲対象とならないと考えられる。

2013年級群（1歳魚）は、春季のシラス漁況において総じて前年を上回り、海域によっては引き続き秋季に未成魚として好漁となったが、夏季以降のシラス漁況は多くの海域で前年を下回った。0歳魚を主たる対象とする夏秋季の房総沿岸2そうまきは前年を下回り、秋季の道東流し網調査（釧路水試）において、0歳魚は見られなかった。沖合域では、2013年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）および同年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）における10cm未満の推定現存尾数及び有漁点CPUEが、2001年以降最低であった。以上の状況から、2013年級群のうち沖合発生群は低水準と考えられるが、沿岸発生群は前年より低水準であるものの、春季の沿岸発生群が好漁であったことから、現段階では総合的な水準判断が困難である。

## 2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

### (1) 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

北薩～薩南海域では、同海域における9月以降の漁況が昨年を下回り、周辺海域のバッチ網漁業の漁況も低調に推移していることから、非常に好調であった前年を下回ると予測される。日向灘では、道東～常磐・房総海域における2012年級群（2歳魚）が低水準と予測されることから、成魚大型群（2歳魚主体）の南下回遊による来遊は期待されないが、今後も注視する必要がある。また、沿岸発生群については、10月以降に漁獲された未成魚が低調であったことから、同海域では豊漁であった前年並～下回ると考えられる。豊後水道南部～土佐湾では、本年夏秋季における未成魚の漁況が好調であったことから、前年並～上回ると予想される。紀伊水道外域では未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではないため、まとまった漁獲はない。

### (2) 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

熊野灘における今期の漁獲対象は、道東～常磐・房総海域より南下回遊する成魚大型群（1歳魚および2歳魚）であるが、2013年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）および同年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）による分布状況や直近の常磐・房総海域の漁況から、来遊量は前年を下回ると見込まれる。伊勢・三河湾～渥美外海では、1歳魚が今期の漁獲の主体となるが、本年夏秋季のシラス漁況から、前年を下回ると予測される。駿河湾～相模湾での今期の漁獲主体は、道東～常磐・房総海域より南下回遊する1歳魚および2歳魚であるが、同海域における分布状況や漁況から、来遊量は前年並～下回ると予測される。

### (3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

2013年秋季の道東まき網では、漁獲がなく2000年以来13年ぶりに漁場が形成されなかった。また、秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）では、東経156度～175度の親潮域にカタクチイワシが広く分布したが、推定0歳魚（2013年級群）および推定1歳魚（2012年級群）のCPUEは2001年以降で過去最低となった。

2012年11月～2013年6月の常磐・房総海域における漁獲量（千葉県、茨城県、福島県の計）は48千トンで、前年（67千トン）を下回った。同海域の漁獲物は12cm以上が主体で、2歳魚と想定される12cm以上の大型魚が漁獲物重量の75%を占め、推定1歳魚（2012年級群、10cm～12cm）は少なかった。したがって、常磐・房総海域に2歳魚として来遊する2012年級群は、前年の2歳魚（2011年級群）より低い水準にあると考えられる。また、2013年級群は秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）において2001年以降最低であったことや、0歳魚を漁獲する秋季の房総沿岸2そうまきが前年を下回ったことから、常磐・房総海域に1歳魚として来遊する2013年級群は、前年の1歳魚（2012年級群）を下回ると考えられる。以上から、来遊量は総じて前年を下回ると予測される。なお、常磐北部海域では、現在まき網の操業自粛措置がとられている。

仙台湾～三陸南部の定置網では、2月まで南下群が、また5月以降に常磐・房総海域からの北上群の一部が来遊し、10cm～13cmの1歳魚、2歳魚が漁獲される。今期は2歳魚（2012年級群）および1歳魚（2013年級群）が前年の2歳魚および1歳魚を下回る水準と予測されることから、来遊量は前年を下回ると予測される。

三陸北部、道東海域への今期の来遊は少なく、定置網でのまとまった漁獲はない。

## ウルメイワシ太平洋系群等の漁況予報

### 今後の見通し(2014年1月～6月)

対象海域:北薩～熊野灘

対象漁業:まき網、定置網、棒受網、多鈎釣

対象魚群:0歳魚(2014(平成26)年級群)、1歳魚(2013(平成25)年級群)、  
2歳魚(2012(平成24)年級群)。

(1)来遊量:北薩及び薩南海域では前年並。日向灘、豊後水道南部、宿毛湾・土佐湾、熊野灘では前年を下回る。紀伊水道外域西部では前年並～上回る。紀伊水道外域東部では前年並。

(2)漁期:全期間。

(3)魚体:期の前半では1歳魚が中心、期の後半には0歳魚が加入する。

### 漁況の経過(2013年8月～11月)および見通し(2014年1月～6月)についての説明

#### 1.資源状態:

産卵量(日向灘～潮岬沖、前年9月～8月)から資源状態を判断した。2013年産卵期の産卵量は86.9兆粒となる見込みであり、2012年度の99.2兆粒より少なかった。1978年以降の産卵量の水準を高位・中位・低位に三分割すると、2013年度は中位にあると考えられた。また、最近5年間の産卵量は横ばい傾向にあると判断した。これらから、系群の資源水準は「中位」、動向は「横ばい」と判断した。なお、2013年11月までの海域全体の漁獲量は3万7千トンであり、1997年以降で最高であった前年(2012年)の4万5千トンから減少する見込みであるものの、比較的高い水準であった。

#### 2.来遊量、漁期・漁場:

今期は1歳魚(2013年級群)主体の漁況になることから、前期(0歳魚時)の漁況等に基づき来遊量を予測した。今期の後半には0歳魚(2014年級群)も漁獲対象になるが、現時点では予測根拠となる情報は得られていない。

北薩～薩南海域では、1歳魚主体に2歳魚(2012年級群)混じりで来遊がある。前期8月以降2013年級群主体に好調な来遊があったことから、今期も1歳魚主体に好調であった前年並の来遊があると考えられる。

日向灘では、1月～5月に主体となる1歳魚の来遊量は、隣接海域の前期の漁況等から、前年を下回ると考えられる。

豊後水道南部西側では、1月～3月に漁獲の主体となる1歳魚の来遊量は、2013年級群が漁獲の主体だった2013年4月～11月のまき網漁獲量が好漁であった前年を下回ったことから、前年を下回ると考えられる。

豊後水道南部東側では、愛媛県および周辺海域において、産卵親魚になり得る2013年級群の水揚げが前年同期と比べて低調であることから、来遊量は前年同期を下回ると考えられる。

宿毛湾・土佐湾では、今期の主体となる1歳魚の前期の漁況経過から、前年を下回る来遊と考

えられる。

紀伊水道外域西部では、標本漁協の漁獲量データから、来遊量は前年並～上回ると予測する。

紀伊水道外域東部では、2013 年冬春期の和歌山県周辺海域における卵稚仔量が平年を上回っていること、近年の紀伊水道外域東部から熊野灘における1そうまき網の漁獲量が増加傾向にあることから、来遊量は好漁であった前年並と考えられる。

熊野灘では、冬季の漁獲量は少なく、前年夏秋季の漁獲動向を反映しないため、例年冬季には熊野灘から逸散すると考えられる。成魚の来遊には、産卵などの生物条件、暖水波及などの海況条件が大きく関与することと推察されるが、ウルメイワシが通常産卵場としていない熊野灘において、その動きを予測することは困難である。一方で、2012 年、2013 年の漁獲水準は過去 20 年間でも上位 5 年に位置する、むしろ特異的な現象とみることができるため、今期の来遊量は前年を下回ると考えられる。

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	和歌山県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター
福島県水産試験場	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部
茨城県水産試験場	宮崎県水産試験場
千葉県水産総合研究センター	鹿児島県水産技術開発センター
東京都島しょ農林水産総合センター	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター
神奈川県水産技術センター	香川県水産試験場
静岡県水産技術研究所	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	(取りまとめ機関)
三重県水産研究所	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所